



富士山エコレンジャーになるには

富士山エコレンジャーは、富士山の環境保全のために活動するボランティアで、富士山を訪れる方に対してマナー啓発や自然の解説をするのが主な役割の方々です。富士山エコサポーターは富士山エコレンジャーを補佐する立場で活動する方々です。

現在、富士山エコレンジャー連絡会には、富士山エコレンジャー12名、富士山エコサポーター11名の23名が登録されていて、それぞれの都合や体力に合わせて現地で活動していただいています。連絡会の会員が集まって活動する日も決まっています。顔合わせや情報交換ができるため、経験が長い方から経験が浅い方に知見の伝達をする機会になっています。会員同士で協力して活動している結果、富士山周辺で年間延べ100日近く活動しています。

富士山エコレンジャーになるまでの流れは、①ふじさんネットワーク正会員からの推薦を受けて富士山エコサポーターになる。②富士山エコサポーターが、富士山エコレンジャー養成研修の必要科目数を受講する。③レポートを提出する。という段階があり、①②③を経て登録されます。

富士山エコレンジャー養成研修は、自然や文化に関する科目、行政の施策に関する科目、登山の安全に関する科目等の全15科目が設定されています。



富士山エコレンジャー養成研修「環境省施策」



富士山エコレンジャー養成研修「討論発表」

必修を含めて10科目以上受講すると、富士山エコレンジャーに登録可能です。2年で全科目を受講できるように研修の計画を立てていて、令和5年度は8科目を実施しました。

前述のように、富士山エコレンジャー連絡会の現在の会員数は23名です。会員数が増えて活動が活発になれば、マナーの呼びかけによるごみの減少、山小屋トイレの適切な利用につながります。また、自然の貴重さが分かっていく方から解説を聞くことで、自然を大切にしようとする来訪者が増えることにつながり、富士山の環境が守られます。

ふじさんネットワーク正会員の皆様には、富士山の環境保全のために活動するボランティアの増加と活動の活性化のために、積極的に富士山エコサポーターの推薦をしていただきますようお願いいたします。

NEWS × COLUMN × REPORT



富士山のごみ持ち帰り マナー向上対策

富士山は新型コロナウイルス感染症の流行によって令和2年は開山せず、令和3年、4年は制限を伴う開山だったため、令和5年は4年振りに制限の無い開山となりました。多くの方が富士山を訪れ、八合目のカウンターの記録では、令和元年の約23万人と近い水準の約22万人だったと発表されました。

多くの山がそうであるように、富士山にもごみ箱が設置されていません。山小屋でもごみは回収していませんので、自分で持ち帰るのが基本的なルールです。準備段階でなるべくごみが出ないようにパッキングし、持ち帰り用のごみ袋を用意して富士山に来ていただくことがまず第一です。

富士宮口や御殿場口は五合目から山頂まで遮蔽物がほとんど無く、登山道沿いで



御殿場口での呼びかけ

ごみをポイ捨てする人は少ないですが、須走口はしばらく樹林帯を歩くため、隠れて捨てる人がいて悩みの種となっています。また、山小屋のトイレ等の死角となる場所に捨てられるごみや、弾丸登山者等が夜を過ごした場所で捨てられるごみへの対応も、関係者の負担となっています。いずれも、人目につきにくい状況で起こることなので、誰も見ていなくても捨てない、というマナーの向上が解決策となります。



御殿場口での呼びかけ

令和5年の開山期も、行政等による、富士登山の準備やマナーに関する情報提供が行われ、自然保護課のごみ持ち帰りマナー向上対策事業でも、インターネット等による事前情報の発信と、現地での呼びかけ、ごみ袋の配布を行いました。一定の成果はあげていますが、情報入手の手段が多様化している時代背景もあり、多くの国から訪れる外国人も含めたすべての方に伝えて、準備をして来てもらうことは難しいのが実情です。

今夏も、開山前から事前情報の発信等のマナー向上のための取組を行う予定なので、皆様も情報の共有・拡散に御協力をお願いいたします。